

# 週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

&lt;先週の説教から&gt;

『ルカ ⑬一羊飼いの羊飼いよ!』

武田 真治 牧師

創世記 46:28-34 ルカ福音書 2:8-14

全回からまさにクリスマスの出来事に入っています。イエス様がお生まれになった「夜」に「野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた」「羊飼いたち」のもとに「主の天使」が近づいて、『今日ダビデの町で、あなたがたの救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。』と告げたのでした。ここで、昔から問われて来たことは、なぜ羊飼いたちに天使は語り掛けたのだろうかという点です。

一つの解釈は、天使は羊飼いに語り掛けたのではなくベツレヘムの町全体に“喜びの知らせ”を告げたのだけでも、夜中でもあり、その声を聞き分け、信じて実際にイエス様の元へと足を運んだのが羊飼いたちであったという理解です。一方、天使が告げたのは羊飼いであったという理解もあります。そうすると、なぜ羊飼いが選ばれたのかということが問題になってきます。この点については、伝統的な解釈では、羊飼いたちが動物や自然を相手に生きており、素朴な信仰を持っていたので天使の招きに応えられたと。ただ、これは今の私たちから見て、羊飼いを良く評価しているのですが、反対に、当時のユダヤ教のラビの視点から見れば、羊飼いは“罪人”と見做されていたのでした。その理由は、羊を飼う仕事は安息日だからと言って休むことが出来ませんでしたし、春から夏にかけて羊を放牧している彼らがエルサレム神殿の祭儀に正しく出席することは難しかったからでした。また羊の出産や食用とする時など必ず血を扱いますから、汚れているとも言われていたのでした。ただ、そうだとすれば、そのような羊飼いたちを敢えて天使がイエス様の元に招いたとするなら、まさしくイエス様は“罪人を招かれる方”であることを表しているとも言えます。

今日の旧約聖書でヤコブ（＝イスラエル）が「わたしどもは、先祖代々、幼い時から今日にいたるまで家畜の群れを飼う者でございます」と言っていますように旧約の民はもともとアブラハムの時から“羊飼い”でした、そしてモーセも若い時にエジプトから追われてミディアンの地で羊飼いをしていました。そして何よりダビデ王はもともと羊飼いでした。羊飼いたちがイエス様の元に集い、礼拝したということは、イエス様こそ“まことの羊飼い＝羊飼いの羊飼い”であるということを表しているのではないのでしょうか。マタイ福音書の三人の博士のように、他にもイエス様の元を訪ねた者達はいたでしょうが、ルカが特に羊飼いたちが集ったことに注目のには、それなりの理由があったに違いないのです。

\*\*\*\*\*

## 【今週の集会】

\*聖書研究・祈祷会 I. 6月12日(水) 20:00  
II. 6月13日(木) 10:30

聖書:

祈祷主題: 上尾富士見幼稚園理事会を覚えて

担当者: (水) 金刺 (木) 齋藤

祈りに覚える人: 飯田さん 池田さん

## 【教勢報告】

主日礼拝 男19 女46 計65  
祈祷会 I. 男5 女3 計8 II. 男1 女9 計10  
日曜学校 幼稚科6 小中科10 計16

\*\*\*\*\*

## 【次週主日礼拝】 6月16日(日)

聖書: ヨハネによる福音書 15:11~17

説教: 「わたしに繋がって」

茨木 長老

讚美歌: 17(1)、449、493、566、29

## 【次週当番表】

司式: 齋藤長老 奏楽: 村上 礼拝: 金刺長老

献金: 小岩 小杉 受付: 飯島 吉岡

会堂準備: 木村 小杉 富澤 長田

橋本 北條

看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: 羽倉

## 【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: ・オリブの葉編集委員会 ・日曜学校教師会

・幼稚園理事会・お茶の会

2024年 6月 9日

日本キリスト教団 上尾合同教会  
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&amp;FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>